

こんにちは。嘱託員の村上です。80年前の今日、世界的に有名な人物が青森県を訪れました。その人物とは、障がい者福祉のために活動したヘレン・ケラーです。今回はケラーの青森県訪問についてお話しします。

昭和12年（1937）4月、ケラーは関西学院大学教授・岩橋武夫の要請に応えるかたちで来日し、7月まで日本に滞在しました。その間、岩橋らとともに全国各地を訪問し、講演活動を行っています。

ケラーが訪問地の一つである秋田市を出発し、列車で青森県に入ったのは6月16日のことでした。この日は最初の訪問地・弘前市の公会堂で講演を行い、一泊して、翌日午前11時45分発の列車で青森市へ向かっています。

青森駅に到着したのは午後0時40分でした。駅のホームでは青森市長の千葉伝蔵や県立青森盲啞学校校長の北山一郎、青森商業会議所会頭の藤林源右衛門（盲啞学校の創設者の一人）、教育関係者らが出迎えました。また、盲啞学校の生徒からは百合の花束が贈られました。

駅を出ると、自動車で宿泊先の塩谷旅館へ移動しました。旅館では日本茶を「おいしい」と数杯飲み、軽い昼食をとりました。宿泊した部屋は3階でしたが、階段をのぼることに不自由さは感じさせず、関係者を驚かせたといえます。

この後、現在の浦町小学校近くにあった盲啞学校を訪問しました。予定では学芸会を見学することになっていましたが、時間の都合で見学することはできませんでした。ケラーは生徒たちに励ましの言葉を贈り、一人ひとりの頭を撫で、記念撮影をして学校を後にしました。



青森盲啞学校の関係者とヘレン・ケラー
（青森県立青森盲啞学校『県立移管記念』、
昭和12年7月、歴史資料室蔵）

続いて、青森県女子師範学校を訪問し、市内の教員や師範学校の生徒を対象とする教育者大会に参加しました。ここでケラーは教育の意義について講演していますが、その中で青森市について「美しい杜の街に違いない」、「海風が爽かに頬に吹いてくるのがわかる」と語っています。

さらに、午後7時30分からは青森市公会堂で市民を対象とする講演会を行いました。多くの市民が集まって客席が満員状態になったことから、ステージの上で講演を聴く人もいたそうです。

塩谷旅館で一泊したケラーは、翌日午前8時20分発の連絡船で函館へと出発しました。最後にケラーは北山盲啞学校長と青森市会の川口栄之進議長に対し、障がいを持つ子どもたちが「一人も教育を受けないものがない様」努力してほしいと希望を述べました。



川口栄之進
(青森県立青森盲啞学校『県立移管記念』、
昭和12年7月、歴史資料室蔵)

ケラーが青森市を訪れた昭和12年は私立学校として運営されてきた盲啞学校が県に移管された年でもありました。ケラーの訪問は県立学校となった盲啞学校の存在やその教育活動を広く市民に知らせることにもつながったものと思います。

※今回の内容は昭和12年6月16日～18日付『東奥日報』、岩橋英行『青い鳥のうた ヘレン・ケラーと日本』(1981年 日本放送出版協会)などを参考にしました。